

令和5年度 京都府立与謝の海支援学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針（中期経営目標）	令和4年度学校経営計画の成果と課題	本年度学校経営の重点目標（短期目標）
◇一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育課程づくりを進める。（12年間を見通しながら） ◇自立と社会参加する力を育てるために、基礎学力の充実に努めるとともに進路指導の充実を図り、希望進路の実現を目指す。 ◇安心・安全な学校環境の整備を行う。 ◇地域における特別支援教育のセンター的役割の推進に努めるとともに、教育、医療、保健、労働、福祉等の関係機関、家庭及び地域社会との連携を行う。 ◇専門性の向上に向けて研修を充実させ、指導内容や指導方法の工夫改善を行う。 ◇教育財産の継承に努め、「与謝の海の教育」の発展・向上を図る。	○教育課程検討会議及び関係分掌等が連携して系統性のある教育課程編成の組織的な検討を進めるとともに、単元配列表や「学びの履歴」を作成するなどの実践を進めることができた。 ○個別の指導計画について、保護者と共有した上で授業反省や評価等を生かして改善するなど、活用を進めることができた。 ○研究部を中心に今後3年間を見通した研究を全校的に行う中で地域とつながりあう教育実践づくりの研究を進め、新たな授業実践についての検討を進めることができた。 ○組織的なきめ細かな進路指導を進め、生徒の希望進路を実現することができた。また、「キャリアパスポート」を作成するなど、キャリア教育の取組を進めることができた。今後もキャリア教育の視点をさらに深めていきたい。 ○避難訓練や不審者対応訓練を実施して一定の成果をあげることができた。今後、中長期的展望をもった計画の策定が必要である。 ○各校種の学校をはじめ地域のニーズに応え、乳幼児期から社会参加までの切れ目のない継続した支援を充実させることができた。 ○校内の研修の機会を引き続き設定した。また、リモート形式等の研修を活用するなど、教職員が積極的に研修を受ける機会が増え、研修への積極的な参加が見られた。 ○各部長がマネジメント能力を発揮して組織運営を円滑に行うことができた。感染対策の緩和を視野に入れ、今の現状に合った各種行事等の在り方を検討することができた。 ○ホームページのリニューアルに伴い発信内容の検討を行った。広報活動を含め発信方法の充実を引き続き検討する必要がある。 ○衛生委員会と連携して全校的な取組を行うとともに、各部署において業務改善に向けての取組を工夫することにより、教職員の負担軽減につなげることができた。 ○コンプライアンスに係る調査を実施して経年比較を行い、教職員の実態に応じた研修を行い意識の向上を図った。今後も継続して取り組む必要がある。	◆12年間の系統性を踏まえ、児童生徒の能力や可能性を最大限に引き出し、自立と社会参加の力を育てる教育課程の編成と授業づくりの実践をさらに進める。 ◆よりよい評価の在り方を引き続き検討するとともに、個別の指導計画が指導や支援にさらに生かせるようにする。 ◆子どもたちが地域で生きていく力を育むため、地域学習の研究と授業実践をさらに進める。 ◆本校が継続して取り組んできた進路指導を更に充実発展させ、一人一人の希望進路の実現を目指す取組を継続して行う。 ◆従来から取り組んできた校内の防災対策や安全・防災教育をさらに充実させるとともに、中長期的視野に立って見直しと改善を図る。 ◆関係機関との連携を密にして、地域のセンター的機能をさらに発揮し、乳幼児期から社会参加までの切れ目のない支援に継続して取り組む。 ◆多様な障害に対応する学習環境づくりのために、教職員の専門性や資質を高める組織的な取組を継続して行う。 ◆各部長のマネジメントのもと、より効率的な学校運営を目指すとともに、教育活動全般のさらなる改善を図る。 ◆ホームページ等や関係機関との連携を通して積極的に広報活動を行い、本校の教育活動が伝わるように工夫をすることで効果的な発信にさらに努める。 ◆働き方改革に係る、業務の改善を図る。 ◆コンプライアンスに係る意識を高め、引き続き府民の信頼を得られるように努める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
小学部	一人一人のニーズや発達段階、障害等に応じた学習や支援の充実、授業改善を進めるとともに、教育課程の検証・改善を図る。	生活年齢や発達段階、12年間の系統性を視点に学習内容を整理し、授業実践を通してより一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程づくりを行う。				
		適切なアセスメントと各教科等のねらいを踏まえた個別の指導計画を作成するとともに、評価を通して教育課程の改善や授業改善を図る。				
		I C Tを効果的に利活用した学習や、地域とつながりあう学習など、児童にとって意欲が高まる授業作りを行う。				
		発達、障害、指導方法等、専門性の向上を目指した研修と学び合いを充実させる。				
	児童を中心に据えて指導者間、保護者、地域、関係機関との連携・協力を図る。	指導者間で連携し、からだづくり、基本的生活習慣や挨拶、ルールやマナーを守る、コミュニケーションの土台となる力の確立など、学校生活全般を通して共通意識をもって指導する。				
		自立活動専任指導者と日常的に連携し、児童の実態や課題を適切にとらえ、障害特性に応じた指導、支援の在り方、評価の検討等を行う。				
		保護者との連携を深め、生活に生きる支援を考える。				
		地域や関係機関等多様な人とつながり、豊かな生活につながる連携を行う。				
	組織的、計画的に業務を遂行する。	年間、学期、月を見通した計画的な授業実践を行う。				
		組織的、計画的、協働的に業務を進める。				
		会議、時間、文書、環境、業務内容等の精選を行う。				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
中学部	個々の障害に視点をあて、キャリア教育の視点を持ち、系統性のある教育課程作りを行うとともに、主体性、思考力を育む授業作りを進める。	系統性、横断的な視点を踏まえて、生徒が「分かる、学びがい」を実感し、「主体性、思考力」を育む学習を進める。(ICT機器も効果的に活用)				
		地域を題材にした学習や交流等の学習をとおして、人とつながる経験を積むとともに、双方が学びのある授業づくりを進める。				
		集団活動が組織的にできるようにし、集団と個の育ちを大切にして、自信や自己肯定感を育てる取組を進める。				
		アセスメントに基づく個別の指導計画の目標と評価を保護者と共有しながら、生活年齢を踏まえ段階的な指導を進めていく。				
	保護者や関係機関との連携を密にし、より適切な支援を進める。	保護者と課題を共有して指導を進めるとともに、学習の様子が家庭に届く発信に努める。				
		校内の各分掌、自立活動、寄宿舎、養護教諭等、組織的な連携を図り、生徒の実態について共通理解のもと、障害特性に応じた指導・支援を充実させる。				
		関係機関と連携、情報を共有し、共同した対応を行う（教育機関、福祉行政、医療、放課後等支援事業所など）。				
	働き方を考え、組織的で効率的な学部運営を進める。	組織的な学部運営と対応を行い、スムーズな運営と組織力の向上を図る。				
		学部の提案事項は計画的に、資料は事前配布、各会議等は効率よく設定する。				
		仕事量の平準化、相互に協力し合い、健康で充実した働き方の工夫や配慮を行う。				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
高等部	発達段階や障害等一人一人の教育的ニーズを把握し、卒業後に生きる力を育む視点を大切にした授業づくりを進めるとともに、教育課程の検証、改善を図る。	学習指導要領に基づき、12年間の系統性や卒業後の生活や就労を見据えたつながりのある教育課程を編成、実施するとともに、学習評価を基に指導目標や指導内容、必要時数等、更なる改善を図る。				
		地域資源を活用し、生徒と地域社会、双方にとって意義ある双方向型の授業づくりを行う。				
		授業等におけるＩＣＴ機器の活用について、一人一人の可能性を伸ばす視点を持ち、興味関心、実態等に応じた効果的な活用を進める。				
		学校生活の充実・向上につながる取組を進め、課題を解決する経験をとおして自己や他者への理解を深め、自分で考え行動する主体性やリーダー性の育成を図る。				
		個別の指導計画の作成・活用について更なる改善を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた妥当性・信頼性のある指導の充実を図る。				
	指導者間や保護者、関係機関等との丁寧な連携を図り、卒業後の社会生活に向けた指導や支援の充実を図る。	生徒の成長や変化への気付きを大切にし、保護者と丁寧に連携するとともに、ケース会議等をとおして関係機関との連携を図り、卒業後の社会生活に向けた支援の更なる充実を図る。				
		学部内外において指導者間の連携を密にし、組織的に課題や指導方針について検討し、適切な指導や支援を行う。				
		自立活動部や外部の専門家と連携したり研修の機会を設けたりして専門性を高め、生徒の実態を的確に把握した上で指導目標を設定し、更なる指導・支援の充実を図る。				
	希望進路の実現と定着支援の充実を図る。	発達段階ごとに「進路目標」を設定し、希望進路の実現に向け、進路指導専任が中心となりつつ、高等部全体で組織的に進路指導を進める。				
		関係機関との連携を深め、社会の変化や地域の実情、多様な教育的ニーズを踏まえた進路指導の充実を図る。				
		職場実習、企業就労等につながる職場・職域開拓に努めるとともに、関係				

		機関と連携し、職場定着支援を強化する。				
	学部運営の効率化を図る。	学部組織や見えにくい業務の可視化を更に進め、役割を明確にしたり情報共有の仕方を工夫したりして、円滑に連携・協働できる体制づくりを進める。				
		会議設定や行事・取組に係る準備期間の見直し、文書記入の精選等、業務改善を更に進める。				
		学部全体運営とのつながりを明確にしつつ、専門部や課程別による運営を強化し、効率的に業務を進めるとともに実務をとおして業務や実践をつなぐ。				
地域支援 会議	地域の課題やニーズを把握し、困り感に寄り添い、他機関と連携した相談活動を行う中で、互いの支援力の向上をめざす。	管内巡回相談員や関係機関とともに巡回教育相談を行ったり連携を行ったりし、地域の支援力の向上を図る。(通級指導教室担当・保健師・作業療法士・地域の相談員、福祉、丹後圏域リハビリテーションセンター等)。				
	計画的、継続的な相談活動や研修会等を通して、個人や集団の育ちを確かめ合いながら、園・校の支援力の向上をめざす。	特に困難なケースには計画的に複数回相談を行うことを検討しながら進める。				
		北部地域を対象とした地域開放講座の開催やニーズに応じた研修会等を実施し、地域のアセスメント力、支援力を高める。				
	各関係機関との連携を密にしながら、乳幼児期から社会参加までの切れ目のない継続した支援やネットワークづくりを進め、本人の実態に合った進路選択につながる支援を進める。	早期からの相談を大切にし、本人の実態に合った進路選択に向けて働きかけをする。				
		各市町の自立支援協議会等に参加し、情報を共有しながら支援を進める。				
	地域の相談支援に対応できる人材の育成に努める。	自立活動専任が積極的に相談活動に加わる。				

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に向けた改善の 方向性	
-------------------	--

